

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102356		
法人名	医療法人社団 豊和会		
事業所名	グループホーム菜の花園		
所在地	栃木県宇都宮市平出町1666-1		
自己評価作成日	令和2年1月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和2年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なるべくご自身のペースで生活をしていただきながら『できる』が少しでも継続できるよう支援しています。ご本人の体調や精神的变化についてはご家族と密に連絡を取り合い連携を図るよう心がけています。自治会や地域の行事にはできるだけ参加し、ボランティアにも多く来ていただくなど地域や事業所外との関わりが持てるよう努めています。リビングから見える窓の外には大きなウッドデッキがあり、腰かけて中庭を見渡すことができます。庭の花や野菜からも季節を感じて頂けると幸いです。共同生活の場であってもなるべく個別に外出する機会を設けるなど職員一同が、入居の皆様楽しんで生活して頂けるよう取り組み、知恵を出し合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市東部の自然豊かな田園地帯の中に位置している。広い中庭には季節の花々や野菜が育てられており、利用者を楽しませている。職員は個人の人格尊重を大切にされた法人理念と、事業所の介護方針や心得を常に念頭に置き、家庭的な雰囲気や環境を大切に環境づくりとともに、優しく笑顔のある介護に努めている。地域の防災訓練に参加したり、市民センター主催の文化祭には利用者の制作品を出品するなど地域との交流を大切にしている。地域の防災ネットワークが構築されており、事業所の消防訓練には地域住民や他事業所職員の参加があるなど協力体制が確立されている。同じペースの利用者をグループ分けするなど工夫をしながらお花見や買い物、食事などの日常的な外出支援にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に基本理念を、事務スペースには介護心得を掲示している。また、職員一人ひとりに配布し理念の共有に努めている。	法人共通の理念や事業所の介護方針を玄関や事務室に掲げ意識の共有に努めている。職員は会議や申し送り時等を通じて共有しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる消防訓練や市民センターの催しには出来るだけ参加するなどしている。また事業所で行う会議や訓練などには地域の方に来て頂けるよう働きかけている。	地域の防災訓練に参加したり、文化祭へ利用者の制作品を出品するなど地域の行事には積極的に参加している。生け花をはじめ多くのボランティアを受け入れているほか、保育園児や幼稚園児との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を活かし認知症を知っていただいたり、地域の催しに参加することで地域の皆さんに向けた活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や活動報告、外部評価等の結果報告を行い、それについて意見を頂き、サービス向上につなげるよう取り組んでいる。参加家族が少ない為、現在参加の呼びかけを行っている。	家族、市民センター職員、地域包括支援センター職員等の参加により2か月ごとに開催している。駐在所員に参加していただいたこともある。ヒヤリハットの事例や災害について意見を交わすなど双方向的な会議となっており、そこでの意見を運営に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や介護支援専門員が主に窓口となり、市役所に出向いたり電話での報告・相談を行っている。また、運営推進会議に参加していただくなど協力関係が築けるよう取り組んでいる。	日頃から市民センター職員と馴染みの関係を築いており、運営に協力を得ている。届け出など手続き上のことは市役所と連絡相談を適宜取りながら協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止に向けた勉強会を開き、職員全体が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。身体拘束は行っていない。	3か月に1度、身体拘束について勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。また、スピーチロックなど言葉かけにも注意している。玄関の施錠はしておらず、利用者が自由に生活できるよう見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の高齢者虐待対応マニュアルなどを参考に2～3か月に1回勉強会を行うなど、職員全体が虐待について意識を持つよう努めている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなど、学ぶ機会を持っている。また情報の必要な家族には、その都度必要な情報を提供できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に体験利用をして頂くなど、利用者や家族の不安を取り除くよう努めている。また、契約や解約の際は十分な説明を行い理解・納得して頂けるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見や不満などを言いやすい雰囲気づくりに努めている。また意見を反映させるためにも、運営推進会議への参加を働きかけている。	利用者には日頃から声掛けを行い、丁寧に意見を吸い上げるよう心掛けている。家族には、面会時等に現状を詳しく伝えるとともに意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎回、代表者は時間の都合の付く限りカンファレンスに参加し、職員の意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映させるよう心がけている。	管理者は、職員とのコミュニケーションを多くとることを心掛け、信頼関係を築いている。毎月のカンファレンスは職員の意見を聴く機会ともなっており、運営に反映させるよう努めている。毎年、個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件を整備し、業務や職場環境を改善し各人が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に一度「仕事能力向上のための面談シート」を活用した自己評価を含む評価を行い、力量などを把握したうえで事業所内外の研修が受けられるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び県のグループホーム協会に加入し、会合や研修会に参加して情報交換を行っている。内容を職員にも伝えることで、事業所内のサービス向上に活かしている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別に話を伺う時間を作りアセスメントを行っている。体験利用をしていただくなど入居者様が不安や要望を話しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来園の際には話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、話を伺う時にはじっくりと傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの情報提供と共に、本人と家族にとって当サービス利用の必要性について再確認して頂けるよう働きかけている。本人と家族にとって最善である事を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事や食事作りを行う際には入居者にアイデアや知恵を出して頂き、できる方には手伝っていただくなど一方的にならないような関係が築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を密に行うことで家族と情報を共有している。助言を頂き、提案をしながら共に入居者を支えるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所に馴染みの人が来られるなど、来ていただきやすい環境づくりに努めている。家族にも協力をいただき馴染みの場所への外出がしやすいよう支援している。	友人の訪問があった時には、お茶を出すなどして居室やリビングでゆっくり過ごしていただくよう配慮している。お墓参りなど家族の協力を基本にした外出も、家族とコミュニケーションをとりながら、実現するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が会話を楽しめるよう座席の配置に配慮している。会話の難しい入居者には職員が間に入り互いに関わりを持っていただけるよう努めている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの経過報告や相談は随時受付し、支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしぶりを考慮しながら、なるべく本人の意向に沿うよう努めている。意思疎通が困難な場合には家族から情報を得るようになっている。	利用者とのコミュニケーションを日頃から大切にしている。意思疎通が難しい場合は、表情やしぐさから職員間で話し合い推し量っている。声の大きさにも気を付けながら、一対一での支援時の何気ない言葉を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を出来るだけ変えない様、これまでの生活環境を把握し支援する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や会話、行動などの情報を職員間で共有し現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状を把握し、変化があった場合は職員間で情報を共有し、随時家族に相談しながら反映している。	生活の様子をよく聞き取るとともに、必要に応じて主治医や訪問看護事業者を確認しながらカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。短期計画に合わせてモニタリングを行い、家族の意向を引き出して利用者にとって最適なプランができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を活用し職員間で情報を共有している。気づきや提案なども記入し実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族と密にコミュニケーションを取り、職員間でその情報を共有することで、利用者の要望に柔軟に応えられるよう努めている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センター文化祭やふれあいコンサートに出向いたり、近隣の朝市で買い物をしたり、消防訓練に参加できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族に付き添っていただき報告を受けている。変化のある際は家族に連絡し、適切な医療を受けていただけるよう支援している。	以前からのかかりつけ医を継続する利用者がほとんどであるが、事業所近くに変更する利用者もいる。家族支援による受診を基本としているが、状況によっては職員が付き添うこともある。家族や医師、訪問看護と情報を共有し、より良い医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、訪問看護師に相談しながら、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供を行っている。入院時には利用者との面会や、家族との情報交換は行っているが、入院に備えての関係作りは行っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行える体制が整っておらず、早い段階から家族との話し合いを行っている。地域とのチームでの支え合いについては取り組めていない。	入居の際、重度化した時の対応について、事業所としてできること、できないことを説明している。また、状態の変化に応じ、随時家族等と話し合っている。主治医との連携や看護体制などから看取りを行う環境にはなっていない。	今後、看取りの要望が出てくることも考えられることから、将来に向けて勉強会を実施するなど看取りに対応できるような取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルなどの整備、急変時に適切な対応が取れるようカンファレンス時等に勉強や訓練を行っている また消防訓練の際、消防署の方に指導をお願いしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方に参加して頂いたり、消防署の方に指導して頂いたりしながら年2回消防訓練を実施している。また、地域で行う防災訓練や他事業所で行う訓練にも積極的に参加し協力体制を築いている。	地域の防災ネットワークが構築されており、事業所の消防訓練には地域住民や他事業所の職員の参加があるなど協力体制ができている。水や食料、カセットコンロなどの備蓄も整備している。	

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対してかける言葉を選び、人格を尊重し、わかりやすい表現をするよう努めている。 また入浴やトイレの際もプライバシーに配慮している。	わかりやすい表現で、人格を大切に言葉かけを心掛けている。トイレ誘導の声掛けも、大きな声にならないよう羞恥心に配慮している。写真の掲載についても入居時に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に好みの飲物を伺ったり、入浴の際には着替えを選んでいただいたり、なるべく利用者本人が決められる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れはあるが、利用者のペースに合わせて支援している。起床や入床の時間も決まっておらず、自分のペースでなるべく自由に過ごして頂けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を得て、利用者の好みの服や化粧品を用意して頂いている。着替えの際にもなるべく自分で選んでいただくよう工夫している。 また、2か月に一度、町内の理容室に来て頂き希望で理髪を受ける事が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けなど一人ひとりの出来る範囲で職員と共に行っている。下膳はなるべく利用者に行っていただくなど一緒に片付けるよう心がけている。	食材は配食サービスを利用している。調理は見た目を楽しくするために大きめに切って柔らかくしたり、利用者の状況によってミキサー食にして提供している。季節メニューやおやつ作り、ドライブを兼ねた外食も取り入れるなど楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材配達の業者が立て、カロリーや栄養も計算もされている。水分も季節などに合わせ意識的に摂取していただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っていただけるよう支援している。また、磨き残しの多い方は口腔内を確認しケア、義歯は1日おきに入歯洗浄など個別の対応を行っている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録を活用し、利用者のパターンを把握し、声かけ・誘導を行い自立に向けた支援を行っている。失敗が増えたなど変化があった時には随時職員間で話し合い家族に報告している。	排泄記録をもとに、利用者の状況に合わせたトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。時間帯によって布パンツ、リハビリパンツ、パットを使い分けながら、家族とも相談して排泄の自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より水分や繊維質の多い食べ物の摂取を心掛け、適度な運動を行うよう支援している。主治医の処方により、内服薬でコントロールを行っている入居者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な時間は決まっているが、入浴日などは決めておらず柔軟に対応している。体調や気分・希望により自分のペースで入浴できるよう支援している。現在、夕方以降の入浴支援は困難。	一人につき週に2～3回、午後の時間帯を中心に入浴できるように支援している。スムーズな入浴に繋がるよう声掛けに工夫している。リラックスしておしゃべりしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や休息時間は自由であり、一人ひとりの生活習慣やその日の状態に応じて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬の目的や副作用について認識し、個別にチェックし、薬の目的や副作用、用法・用量について理解し、内服の支援・管理に努めている。変化があった時には、家族に連絡し、受診して頂くよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の「できる」事に合わせて役割を持って頂いている。毎月や季節ごとのイベントなどで気分転換して頂けるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にその日の希望で一人ずつ出かけることは困難であるが、個別での買い物や家族等の協力を得ての外出支援は行っている。	利用者は天気の良い日に、日頃から中庭を散歩している。同じペースの利用者をグループ分けするなど工夫しながら、お花見や買い物、食事などの外出を支援している。毎月、家族の付き添いで受診する際に、外食や買い物を楽しむ利用者もいる。	

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物のために小遣いはあるが、金銭管理を行うことは難しく、事務所にて管理を行っている。外出の際は支払いなど行って頂くよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時には電話を貸す等の支援をしている。離れた家族やご友人からの手紙はご本人にお渡ししている。ご本人からの返信はご家族に渡し判断して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使いやすいテーブルや椅子の高さに配慮し配置も工夫している。共有空間から花や野菜が植えられた庭を眺める事が出来、季節を感じる事が出来る。また、廊下・トイレ・浴室には手すりを配し安全で居心地良く過ごせるよう工夫している。	玄関やリビングには生け花が飾られ癒しの空間となっている。食事の席は、全員がテレビを見ることができるよう配慮している。リビングは床暖房が入り、温度、湿度は適切に管理されている。手すりなどの消毒には次亜塩素酸を使い、職員がいつも衛生面でも気を使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じホール内に居ても、数名のグループで寛ぐ方、少し離れテレビやビデオを楽しみ寛ぐ方、自室で寛ぐ方など思い思いに過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に『居室には使い慣れたものや好みのもの』を置いて頂くよう説明している。ご家族と相談し居心地の良い空間になるよう配慮している。	洗面台、エアコン、障子、押し入れが据え付けられており、寝具はリースである。ベッド、ダンス、テレビ、仏壇、テーブル等、自由に使いたいものを持ち込むことができる。利用者は自分の作品、写真、生け花などを飾り、その人らしく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や、トイレには大きく見やすい表示をするなど工夫をしている。		